

平成24年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立大垣工業高等学校

学校番号 27

I 自己評価

1 学校教育目標	誠実にして心豊かな人間性と強くたくましい身体の上で、すぐれた知識と技術を兼ね備え創造性に富む実践的な産業人の育成を図る。 このことを実現するために本年度は以下の重点目標を設定した。 (1) 生徒の興味関心を喚起して確かな力を身に付けさせる教育の推進 (2) 生徒に軸足を置いた豊かな人間性を育てる教育の推進 (3) 生徒一人一人が帰属意識をもち生涯を見通した進路意識を高揚させる教育の推進	
2 評価する領域・分野	◇図書	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・特になし。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇心豊かな人間性の育成をめざし、読書環境の整備に努め読書指導に当たるとともに、学習・情報センターとして図書館の施設・設備の活用と情報化社会に対応した図書館教育を推進する。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・図書館教育研究会の設置	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 朝読書週間および校内読書感想文コンクールの開催 (2) 図書館管理システムや調べ学習などにおけるインターネットの利用など情報化社会に対応 (3) 図書資料・視聴覚機器等の充実	(1) 読書感想文の取り組み状況および外部コンクールにおける評価 (2) 書籍の貸し出し状況および授業等における図書館利用状況 (3) 各分野バランスのとれた蔵書の充実	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
・新入生の図書館オリエンテーションを実施したほか「図書館だより」「新着案内」を発行 ・全職員および国語科の協力を得て朝読書と校内読書コンクールを実施 ・視聴覚室の管理、教材、機器の管理に努める	①図書館利用状況 ②生徒の取り組み状況 ③視聴覚室、視聴覚機器等利用状況	A (B) C D A (B) C D A (B) C D
11 成果・課題	○校内読書感想文コンクールおよび朝読書に対し全職員の協力が得られた。 ○頻繁に利用する生徒や熱心に読書する生徒の姿が見られた。 ○授業時や放課後等、学習・情報センターとして多く利用された。 ▲利用している生徒が固定化する傾向がある。全体としての利用件数は減少傾向にある。 ▲一部に利用マナーの悪い生徒が見られた。全体にマナーの向上を図る必要がある。特に三者懇談時に課題をやりに来ている生徒に顕著である。 ▲利用される書籍はライトノベルが中心で、読書の「質」の向上に向けた指導も必要である。	
12 来年度に向けての改善方策案	・生徒の視点に立った図書館運営と図書の充実をはかり、生徒の読書意欲を向上させるとともに、魅力ある図書館を創造する。 ・視聴覚室の整備、視聴覚機器・教材の充実をはかり利用しやすい環境を整える。	

II 学校関係者評価

実施年月日：平成25年1月31日

【意見・要望・評価等】 ・特になし
